



おいしい時間・おいしい水

土木写真家 **西山 芳一**

被写体である土木構造物に太陽光が斜めに当たる早朝と夕方を「おいしい時間」と呼び、被写体がすばらしい表情を見せてくれる時間帯です。そんな姿を狙って幾日も天気のリターンを待つこともあるうえ、土木遺産の中には、人里離れた場所に存在する構造物も少なくありません。という訳で私のロケでは旅館・ホテルはほとんど利用せず、二十数年にわたり自分で内装を工夫したワンボックスのキャンピングカーで撮影旅行をしています。そんな私の強い味方がロケ用のオリジナルデータベースです。これには被写体となる新旧の土木構造物のほか、「道の駅」など車中泊に適した駐車場、「日帰り温泉」や「共同湯」など浴場、そして「日本の百名水」ほか飲料用湧水施設などの名称・スペック・住所・緯度経度・評価などをリスト形式で記した約一万件に及ぶ項目が網羅されており、ロケ前のスケジュール作成はもちろん現地での探索にもすこぶる威力を発揮します。

撮影や車内泊と一見無関係な飲料用湧水施設がデータに登録されているのは、ロケ先の「おいしい水」との出会いが被写体の「おいしい時間」の次に大切だと思っているからです。キャンピングカーの車内収納のほとんどはカメラ機材や冷蔵庫のスペースですが、ベッドの下に20ℓのポリタンクが2つ、4ℓのペットボトル8本が収納できる72ℓ分の飲料水置き場を確保し、ロケに行くたび、現地の「おいしい水」を汲んで帰ります。これだけあれば次のロケまでに自宅で消費する飲料水はとりあえず充分で、家族は水を買ったこともなければ水道水も飲んだこともありません。最高の土産だと思っています。はたしてロケの後半や帰路は「湧水めぐり」となるのです。

日本国内に湧水は無数にありますが飲料に適しているものは少なく、「日本の百名水」とはいえ飲用を保証しているものはひとつもありません。危ないなと思った湧水はポットでの煮沸用や料理使いにと分けています。蛇口

が付いているような管理された施設での取水は生水でも飲用可能でしょう。そんな中から私のお勧めで首都圏に近いものをいくつか挙げますと、東名高速では駒門PAの上下線、道の駅では「ふじおやま」が富士山の伏流水、R20北杜市の道の駅「はくしゅう」では南アルプスのおいしい水、関越道の谷川岳PAの上下線で谷川岳の名水が自由に汲めます。ちなみに私の一番の好みは、きれいに管理された湧水施設が数か所所在し、水量も豊富な富山県入善市の「黒部川扇状地湧水」です。北陸はロケの機会が少ない地域ですが、決まれば行く前のスケジュールリングから取水が楽しみです。

おいしい水の豊富な日本に生まれ育ったこと、そして全国のおいしい水に出会える機会の多い職種であることに改めて気づき感謝しています。

